

## 令和2年度（2020年度）第2回東海市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和3年（2021年）2月10日（水）午後3時から4時まで
- 2 場 所 201会議室（庁舎2階）
- 3 出席者 鈴木市長、加藤教育長、久野教育委員、秋葉教育委員、木原教育委員、堤教育委員、石川教育委員、佐治副市長  
企画部 江口部長、石川企画政策課長、芦原統括主任、岩田主任  
教育委員会 野口部長、濱田教育委員会次長、河村学校教育課長、中島統括主幹、新美主任指導主事、中山教員研修センター所長、佐々木指導主事、石松主幹、ICT支援員

### 4 議事内容

企画部長： 定刻になりましたので、ただいまから、令和2年度第2回東海市総合教育会議を開催させていただきます。

本日進行を務めさせていただく企画部長の江口でございます。よろしくお願いいたします。

この会議は、法に基づき、公開することになっており、本日の議事録につきましても、後日、公開することとなりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、はじめに鈴木市長からあいさつをお願いします。

市 長： みなさん、こんにちは。

本日は、大変お忙しいところ、また新型コロナウイルス感染対策による緊急事態宣言の中ではありますが、令和2年度第2回目となる総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、教育委員の皆さまにおかれましては、日頃から本市の教育行政に大変御尽力いただきまして、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

総合教育会議の設置から5年が経過するなかで、その時々課題について協議を進めてまいりました。一番最初は、子どものいじめ問題について。次は、貧困が教育に与える影響について、不登校の問題について、そして今年度はICT教育について、教育委員のみなさんと課題解決に向けて取り組んできたところでございます。

私は、今回の会議が最後の出席となりますが、これまで子どもたちが様々な体験を通して成長できるような取り組みについて応援をしてきたところで、次の時代を担う子どもたちの教育や人づくりは大変重要でございますの

で、これからも子どもたちにとってより良い教育環境に向けてしっかり取り組んでいただくことをお願いしまして、私のあいさつとさせていただきます。

企画部長： 続きまして、加藤教育長お願いいたします。

教育長： みなさん、こんにちは。本日は第2回目の総合教育会議となります。

本年度は、ICT教育について取り上げていただき、第1回目でも様々なご意見をいただいております。

ご案内のように、来年度から1人1台のタブレットが導入されるということで、その活用に向けて本年度は、ICT支援員とともに「GIGA Week」の中で、各学校で1週間ずつICT機器などを体験してもらい、来年度に向けての成果や課題を整理してきたところであります。

本日は、成果と課題を確認しながら、来年度の運用に向けていろいろな形でご意見いただけますと大変うれしく思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

企画部長： ありがとうございます。それでは、議事につきましては、会議次第に沿って進めていきたいと思っております。

さっそくではございますが、次第1協議事項「GIGA Week等の検証結果の報告及び今後の取り組みについて」を教育部長から説明いたします。

教育部長： 教育部長の野口でございます。

「GIGA Week等の検証結果の報告及び今後の取り組みについて」説明いたします。

A3の資料1「ICT教育推進のための研修・授業実践と令和3年度に向けて」をご覧ください。

まずは、資料の左上、令和2年度 研修と授業実践「4月からの世界を体験！GIGA Week」をご覧ください。

令和3年度4月のICT機器導入、1人1台パソコンに向け、教員のICT機器活用の意識やスキルの向上を図ることをねらいとして、各校順番に1週間ずつ、ICT機器一式とICT支援員を配置して、研修と授業実践を行っており、来週予定の加木屋南小学校で市内18校全てで実施済みの予定となっております。

校内研修では、ICT支援員を講師に、電子黒板機能付きプロジェクターを使った分かりやすい拡大提示の方法と書き込みの仕方や、指導者用デジタル教科書に搭載されている機能の活用方法などの研修を実施しております。

その下の授業実践では、写真にございますように主に4つの内容となっております。特に発表ノート機能を活用した授業は、先生と児童生徒の両方がタブレットを使うという双方向での操作となるため、「G I G A W e e k」内での実施は、難しいのではないかと考えておりましたが、先生方が積極的に使い、ICT支援員のサポートによって、多くの学校で実施することができました。

また、動画機能の活用は、録画によって自分の動きが確認できることから体育の授業で多く使われ、児童生徒がその場で自分の動きを見て改善していくといった、子どもたちも先生もやりたかったことがタブレットの導入によって実現しております。

資料の中央の上、アンケート結果をお願いします。

児童生徒へのアンケートでは、タブレットを使った授業について、「よく分かった」「まあ分かった」を合わせると92%で、タブレットの操作については、「できた」「まあできた」を合わせると82%の児童生徒が肯定的に捉えております。

また、来年度からのタブレットを使った授業については、「楽しみ」「少し楽しみ」と答えた児童生徒が95%となっており、タブレット導入に対しての期待感がうかがえます。

教員へのアンケートでは、児童生徒の様子についての質問項目で、「児童生徒が楽しく取り組んでいた」「まあ取り組んでいた」を合わせて98%、「児童生徒が集中して取り組んでいた」「まあ取り組んでいた」を合わせて93%という結果でした。

児童生徒のタブレットの操作については、「スムーズにできた」「まあできた」を合わせて、64%の教員が肯定的な回答をしていますが、36%がスムーズではなかったと回答しています。しかし、児童生徒のアンケートでは、児童生徒の82%が「タブレットの操作がある程度はできた」と回答しています。これは、今回の「G I G A W e e k」では、ICT支援員が常に立ち会い、児童生徒のサポートをして操作を進めることができた結果だと考えております。

アンケート結果の右の欄をご覧ください。

「G I G A W e e k」期間中には、貸し出している機器以外にも既に校内にある大型モニターや書画カメラなどのICT機器を使用し、授業実践を

行っております。

「G I G A W e e k」は参考になったかの結果からは、1週間という短い期間ではあるが、実施効果があったと考えております。

令和3年度にICT機器を活用して行ってみたいことの回答からは、画像や音声、動画等の教材や資料の提示など、視覚や聴覚に訴えた授業展開という、これまでの授業実践の延長上での項目が選ばれていますが、一方で、意見や考えを共有し、整理する活動や、グループや学級での発表や話し合いといった児童生徒用タブレットを挙げている教員も多く、タブレット導入による可能性の広がりを感じている教員が多いことも伝わってまいります。

「G I G A W e e k」を通しての成果と課題を、資料の中央下にまとめました。

成果としましては、今回、タブレットを使った児童生徒たちからは、「また使いたい」という意見が聞かれ、タブレットを活用した授業を楽しみにしていることがよく分かりました。

また、教師は「やりたいこと」「やらなければならないこと」の理解、来年度へのイメージをもつことができたことが成果と考えています。ICT支援員が紹介した機器の活用方法や、授業実践や他の教員の授業を参観する中で、「やりたいこと」が明確になってきたと考えております。

「やらなければならないこと」として、教員が、自分に不足している機器操作に関する知識や、児童生徒に使用させるために必要なルールやマナーの指導の仕方等を「自分事」として捉えることができたと考えております。

課題としてまず挙げられますのは、ICT機器を効果的に活用する場面を研究していく必要性があることです。ICT機器は、あくまで児童生徒の学習目標を達成するための「手段」ですので、授業実践を効果的に行う視点が重要となります。また、ICT機器の活用能力では、個々の教員に差が見られますので、実践や研修を通して、また、教員間の協力とICT支援員の支援によって底上げを図っていく必要があると考えております。

以上のことから、資料右下、令和3年度に向けてとして、以下の3点について重点的に進めていきたいと考えております。

まず、1点目は、令和2年度の実践結果を各校で共有として、授業実践結果を、「ICT機器活用授業事例集」としてまとめ、各校で情報共有することで円滑な運用に繋げてまいります。このような実践例の蓄積・活用は、3年

度以降も継続してまいります。

2点目は、令和3年度のICT機器活用計画の提示を行ってまいります。教員個々のICT機器活用能力の差が課題であることから、「東海市スタートアッププログラム」を各校に提示することで、足並みをそろえて運用を進めていきたいと考えております。「スタートアッププログラム」につきましては、後ほどご説明させていただきます。

3点目は、ICT支援員の活用と校内研修の充実を図ってまいります。授業でICT機器を効果的に活用するためには、ICT支援員を効果的に配置して各学校で授業支援を行うこと、また、支援員を講師として計画的に研修を行うことが重要であると考えております。

それでは、別添1「令和3年度 東海市ICTスタートアッププログラム」をご覧ください。年度当初からのICT機器のスムーズな活用と、児童生徒の学びを深める一助とすることを目指し、作成しております。

上段の研修プログラムにありますように、3つのステップを踏みながら、教員の研修を進めてまいります。

ステップ1は、機器の導入時に実施し、教師が、4月当初の授業ですぐに必要となるICT機器の機能についての研修を行います。

児童生徒に向けて『オリエンテーションブック』の作成を予定しております。掲載内容は、資料の左に記載したように、教室に設置される保管庫からの出し入れの仕方や、タブレットの持ち運び方、タブレットの操作方法、情報モラルといった内容を考えております。

研修プログラムに戻ります。『オリエンテーションブック』の活用に向けての研修を行った後、ステップ2、ステップ3では、主にソフトの活用方法について研修を進めてまいります。

第1回総合教育会議において『ICTを効果的に活用した学習場面の分類と推進計画』を説明させていただきましたが、その推進計画に添った形で研修を進めていく流れとなっております。

その中で、ステップ2では「令和3年度に全教員が取り組む内容」、ステップ3では「令和4年度以降に全教員が取り組む内容」の研修を実施し、10月以降は、ICT機器のスムーズな活用やより分かりやすい授業の実践例を学ぶことで、次年度につながる研修を行ってまいります。

資料の下側では、これらを活用した学習場面を、絵を使って示してありま

す。

情報の共有、発表や話し合い、表現力を高め、協働制作へ。このような展開を進めることで、新学習指導要領の大きなテーマであります「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業改善となり、児童生徒にとって「分かる・できる・楽しい」授業につながっていくものと考えております。

以上で説明を終わります。

なお、本日は「G I G A W e e k」で各学校に行っておりますICT支援員にも出席していただいております。

企画部長： ただいま、説明をさせていただきました内容について、ご意見、ご質問等はありませんでしょうか。

市長： ICT支援員にお伺いしたいのですが、実際に学校を回ってみていかがでしたか。

ICT支援員： タブレットが導入されたことで、児童生徒の授業への興味関心が非常に高まっており、積極的に授業に参加している様子が伺えました。

秋葉委員： 保護者から、子どもたちがタブレットを使った授業があるということをごく楽しみにしていると聞いております。また、子どもたちが今までの授業ではそんなに興味を持たなかったことに対しても、タブレットを使うことで授業に興味を持って取り組んでいると聞いております。

オリエンテーションブックを作成していくことはすごく大事なことであり、ICTが子どもたちにとって身近なものになっていく中で、情報モラルにしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

また、オリエンテーションブックを紙媒体で作るイメージを持っていると聞いておりますが、紙に印刷したものを渡すのではなく、タブレットの中に入れ込むなどしたほうが、ICTを活用していく取り組みの中では有効的であると思います。

学校教育課長： 情報モラルについては、従前から子どもたちにスマートフォンの取り扱いなどについて指導しており、今後も大切になってくる部分ではあるので、オリエンテーションブックの中に入れた方がいい部分については入れていきたいと思っております。

また、ICT教育を進めていく中で、機器を操作しながらタブレットのオリエンテーションブックを確認することが難しい場合もあるかと思いますが、子どもたちの様子を見ながら、紙で残していくところとタブレットに入れて

いくところを使い分けていけるように考えていきたいと思います。

秋葉委員： 「G I G A W e e k」を見て、また、アンケートにもありましたが、子どもたちはスムーズに操作することができていると感じました。一方で、先生たちのほうが授業の作り方があるので、迷われるところもあるのかなと思いますが、使用の仕方については、子どもたちはあっという間に慣れておりました。操作についてはまだ知らないこともあると思うので、子どもたちに理解してもらえるように、I C T支援員にしっかりと指導していただきたいと思います。

木原委員： I C T支援員にお伺いしたいのですが、教材作成について、先生方がつくったプログラムに対して支援員が提案や助言をするのか、支援員がマニュアルを提示してそれにあわせて先生方が授業をしていくのか、どちらでしょうか。

I C T支援員： 授業の中で使うものに関しては、先生方から「このような授業をしていきたい」という考えをお伺いしたうえで、適切なソフトや機能を提案するなど、先生方からご意見を伺いながら進めていく予定です。

木原委員： I C T教育の推進は教員の多忙化解消にもつながると思いますが、新たに求められるプログラムの作成などが先生の負担とならないよう、I C T支援員には先生の力になっていただきたいと思います。

堤 委 員： 昨年度からI C T教育の視察に行かせていただいたり、「G I G A W e e k」の中での取り組みを見させていただいて、機器のトラブルにおいてI C T支援員が活躍していると感じました。

今回配置されるのが6人ということで、私は1校1人が望ましいと思っておりますが、知多管内の他市町は、どのくらい配置されるのでしょうか。

学校教育課長： 半田市は、18校に対して5人。常滑市は、13校に対して3人。知多市は、15校に対して3人。大府市は、13校に対して1校あたり月80時間を確保するかたちでI C T支援員を設置すると聞いており、概ね、普通交付税で算定されている4校に1人を目標にしているようです。

久野委員： 私の子どもは、「G I G A W e e k」の対象クラスではなかったのですが、昨日、タブレットの保管場所が設置されたことを家で話してくれて、すごい楽しみにしていることがよく分かりました。

本人も少し不安はあるのかもしれませんが、家に帰ったらまずパソコンやゲームの電源を入れる習慣がついているので、オンラインでの家庭学習とし

て宿題などの勉強方法が確立していくことができると、家に帰ったらタブレットの電源を入れて家庭学習を始める習慣が身につくと思います。

一方で、学校でいろいろ教えていただく中で、保護者は先生やICT支援員に期待してしまう部分が多いと思いますが、先生によって活用のスキルに違いはありますでしょうか。

ICT支援員： 今回の「GIGA Week」は1週間ということで、先生1人あたり1、2時間の授業となりますので、この期間中に使いこなすことは難しかったと思います。しかし、「GIGA Week」を通して少しずつ操作に慣れていく先生方が多くいらっしゃるよう感じましたので、まだまだ先生によって差はありますが、これから実際にタブレットが導入されて何度か授業をしていくことで、先生方のスキルも上がっていくと思っております。

久野委員： 先ほどもありましたが、ICT教育は先生の多忙化解消にも役立ちますし、子どもたちの勉強に対する意欲も今後変わっていくことを期待して進めていきたいと思っております。

秋葉委員： 視覚や聴覚に訴えて子どもたちに分かりやすい授業ができることが、ICT教育の良さであると思います。しかし、私が少し危惧していることがありまして、一部の子どもになるかもしれませんが、視覚や聴覚にとっても敏感な子どもたちもいるので、先生方はよく分かっているとは思いますが、今までとは違って音や光が出てくることによって、子どもたちの負担にならないような授業をやっていただきたいと思います。

またスタートアッププログラムの下段で、「個に応じた学習」ということで、今後ドリル学習等で個々の進度に応じて、子どもたちが自分でどんどん学びを進めていくことは、ICT機器を活用した授業展開の中では大事なことだと思います。今はコロナのこともあってみんなで頭を寄せ合って何かできるという授業は以前と違ってできないのですが、お互いの考えをタブレットを活用してみんなで共有していくことができるような協働学習にも活用して、さらに個別学習の質を高めていくような流れを先生方にはぜひお願いしたいと思います。

個別のスキルを上げていくこともすごく大事ですが、学校なので、みんなで一緒に前に進んでいくことができるような授業をつくっていただきたいです。

学校教育課長： 今回ドリルソフトを入れていくのですが、個人で進めていく部分もあれば、



その子の苦手なところやそのクラスや学年が苦手なところなどを分析することもできるので、苦手分野を克服できるよう取り組んでいきたいですし、今まで授業で手を挙げて発言していた部分を、タブレットを導入することで全員の意見をプロジェクターや大型提示装置に映し出すことが可能になりますので、1人1人の考えが分かります。ICT機器をひとつの道具として上手に使っていきながら、「主体的・対話的で深い学び」を進めていきたいと考えております。

堤委員： 研修プログラムのステップ2で、オンラインでの家庭学習等の仕方とありますが、前回の総合教育会議でも子どもたちが家庭に持ち帰り、使用する話題があったと思います。全ての子どもたちが持ち帰ることのできる環境はあるのでしょうか。

学校教育課長： Wi-Fiルーターについては、国の補助を受けながら1,000台準備をしており、来年度、新学年になったときにご家庭のWi-Fi環境の確認をしながら、家庭学習で活用ができるように準備をしていきたいと思っております。

石川委員： 1人1台タブレットが導入されますが、機械なので使っていて動かなくなったり止まってしまうトラブルは起きると思います。実際に「GIGA Week」でもありましたか。

ICT支援員： 例えば、サーバーの接続が途切れて繋がらなくなってしまうトラブルも起きましたが、支援員が接続し直すことですぐに授業に戻ることができました。

石川委員： 機械そのものが不具合を起こしたことはありましたか。

ICT支援員： 実際に授業中でタブレットにトラブルがありまして、すぐに別のタブレットに交換し、授業をスムーズに進行できるようサポートを行いました。

石川委員： 機器のトラブルへの対応を想定すると、予備のタブレットが必要になるかと思いますが、どのような準備をされてますでしょうか。

学校教育課長： 基本的には、クラスの台数分と、将来的な5年間の人数の増加分はありますが、1クラス分の予備などはありません。同時に多くのタブレットが動かないなどのトラブルが発生したときは、先生が紙の授業に切り替えて進めるなどの方法で対応していくことになります。

石川委員： 実際にタブレットを使う授業が始まったら、トラブルがあった場合の対処法も考えていかなければならないですね。予備があればいいのですが。

久野委員： アンケート結果では、大多数が良い評価ですが、「分からなかった」「でき

なかった」「楽しみではない」と回答した子どもたちも一部います。来年度一斉にスタートすることなのでフォローもしやすいかと思しますので、不得意な子どもにも着目して、少しずつ良い方向へ向かうようにしていただきたいと思ひます。

企画部長： たくさんご意見をいただき、ありがとうございました。それでは、次第2「教育行政の推進に向けた意見交換」に移らせていただきます。

本日は、市長と教育委員の皆さまがお揃いとなる貴重な機会ですので、教育行政の推進に向けた忌憚のない意見交換の場としたいと思ひます。今後の課題等について何かご意見等がございましたら、ご発言をお願いします。

木原委員： 先ほど堤委員からお話のありましたオンライン授業についてですが、2日ほど前のニュースで、岐阜市の則武小学校では月に1回、午前中の授業をオンラインで実施していることを知りました。授業が1コマ40分で、算数、理科、音楽を、子どもたちはあらかじめ配布されたタブレットを自宅に持ち帰り、オンラインで授業に参加していました。東海市では、環境面からなかなか難しいかと思ひますが、これから月に1回程度、オンライン授業に取り組んでいけるといいと思ひました。実験的に始めるといろいろな問題や課題が出てきて大変だと思ひますが、それ以上に様々な可能性が見えてくると感じました。

教育長： オンライン授業をいろいろな場面でやっていかなければいけないと思ひております。4月からタブレットが導入され、子どもたちが慣れてきたところで、一斉に始めることは難しいので、まずは限定して持ち帰り、家で使用することができるかなど、少しずつ確認しながら進めていきたいと思ひております。

久野委員： 今いろいろなところで35人学級に関する話を聞きます。進めていく上での学校の対応や教員の数、市の対応などもあるかと思ひますが、どのような現状でしょうか。

教育長： 国では、現在小学校1年生が35人学級となっており、来年度から2年生、再来年度は3年生と順番に拡大し、6学年全てで35人学級を実施していく方向で進んでおります。

愛知県は、すでに一年先行して実施しており、現在、2年生まで35人学級を実施しております。今回の国の動きを受けて、愛知県では、1年前倒しで来年度から、小学校3年生の35人学級を先行実施という方向を検討して

いると聞いておりますので、来年度は3年生まで35人学級になる可能性がございます。国よりも1年早く進んでいくことになるようですから、それに合わせた準備をしていく必要が出てきます。

これまでも、教育長会議などの様々な会合で35人学級の早期実現を要望してきたので、大変歓迎すべきところではございますが、急に決まってきたことですから、教員の確保などいろいろなところで心配もございます。

学校教育課統括主幹： 施設面から申し上げますと、35人学級の実施によって学級数が増えるところもありますが、全体的なクラス数を見ると影響のない学校や、空き教室を使用することで影響のない学校がほとんどです。

しかし、加木屋南小学校で今のところ1クラス分の教室が不足するため、特別教室を転用し、来年度にはエアコンの設置をはじめとした対応を予定しております。

秋葉委員： 私は、任期の関係で今回の総合教育会議が最後になると思いますが、東海市の子どもたちの教育が、社会教育も含めて様々あるなかでも、「東海市で学んで良かった、東海市に住んで良かった」と思ってもらえるような教育を、今後も進めていただきたいと思います。

I C T教育の進め方に関して、先日、愛知県の義務教育問題研究協議会に出席させていただきました。会議の中でタブレットは1人1台なのですが、モニターや電子黒板が全ての教室に設置できるかどうかは市町によって違うという話を聞きました。市町の財政状況にもよりますが、愛知県どこでも同じ教育水準が実現されるといいなと思いつつも、やはり、私は東海市の子どもたちの教育を大切にしてきましたので、今後、社会情勢も含めて様々変化していくなかでも、東海市の教育が体験などを通して、子どもたちによりよい学びや環境となっていくことを願っております。

市長： 本日はI C T教育についていろいろな意見をいただきましたが、これからの教育行政を見ますと、財源がたくさん必要になってくる課題もあります。

東海市が誕生した当時からたくさんの学校をつくってきた経過の中で、学校施設が大変古くなってきており、今後どのように改修し、もしくは建て替えをしていくのか、教育委員会で施設の修繕や改築のあり方について、2021年から2040年の20年間の計画を策定しています。

この20年の中で、どこの学校から改善していかなければならないのか、どのような改善の仕方をしていくのか、具体的に明示していかないと答えが

なかなか見えてこないと思います。

例えば、校舎が一番古い平洲小学校を建て替えや改修する時に、どのような形で実施していくのか、全体観を持たないと改善されていかないと思います。

それから、学校教育ばかりではなく、文化財でも、緑陽公園予定地の太佐山高射砲陣地をどのような公園としていくか、聚楽園大仏をどのように活用していくか、しっかり教育委員会で議論していただきたいと思っています。

また、平洲記念館ができてもうすぐ50周年を迎えます。もともと平洲記念館が建てられた経緯をご紹介しますと、東海市の特性として上野町や横須賀町の人が4割弱、今は3割5分ぐらいのようですが、それ以外の6割5分は釜石市をはじめ全国から来て東海市を第2のふるさととして活躍していただいている人です。全国からいろんな人が来たということで、言葉や考え方が違ったりする中でも、東海市民として心の拠り所になるようにという意味を込めて、前岡島市長が平洲記念館を建設して、現在まで続いてきております。

そのようなことを、子どもたちが知ることができるような取り組みを考えていただきたいと思います。

公共施設では、文化センターが古くなってきており、今後どのようにしていくのか、教育委員会の中でしっかりと議論が必要です。

子どもたちの教育やスポーツ、文化などいろいろ課題がありますが、教育委員のみなさんが先頭に立って進めていただきたいと思っております。

企画部長： たくさんのご意見ありがとうございました。それでは最後に、来年度の開催について企画政策課長からご説明いたします。

企画政策課長： 来年度の総合教育会議は、2回程度の開催を予定しております。

協議内容等については、改めてご案内をさせていただきますので、よろしくをお願いします。

企画部長： これで、第2回総合教育会議を終わります。本日は、ありがとうございました。